

<参考和訳>

AIG、2009年第4四半期と通年の結果を報告

2010年2月26日（ニューヨーク発）：AIGは、第4四半期のAIG普通株主に帰属する純損失は、前年同期の617億ドル（希薄化後、1株当たり458.99ドル）に対し、89億ドル（希薄化後、1株当たり65.51ドル）となったことを発表しました。前年同期の修正純損失385億ドルに対し、2009年第4四半期は72億ドルの修正純損失を計上しました。

第4四半期の純損失の主な要因は以下のとおりです。

- 予告済みの、金利および償却費用62億ドル（税引き後、40億ドル）
これには、ニューヨーク連邦準備銀行（FRBNY）のクレジット・ファシリティ（与信枠）における負債および利用可能額が250億ドル削減された結果、発生する前払い委託資産の前倒し償却費用52億ドル（税引き後、34億ドル）が含まれます。
- 予告済みの、進行中の南山人壽保険（ナンシャン）の株式売却に関する損失28億ドル（税引き後、15億ドル）
- 企業向け損害保険事業における支払備金の増強23億ドル（税引き後、15億ドル）
- 上記の事象等を原因として生じる繰延税金資産の現時点での評価性引当金として計上した27億ドル

本プレスリリースを通じて、各項目の税引後の記載数値は、評価性引当金の計上前のものです。

第4四半期中、AIGの一部の事業は引き続き安定化しており、世界的な金融市場の回復傾向が業績に反映されました。

第4四半期

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

	2009年	2008年	希薄化後1株当たり(a)(b)	
			2009年	2008年
AIGに帰属する純損失	\$(8,873)	\$(61,659)	\$(65.51)	\$(458.99)
修正純利益算出のために、損失を加えて利益を控除：				
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引後	(501)	(20,312)		
事業売却の純損失、税引後	(326)	-		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の利益（損失）、税引後 (c)	176	(2,176)		
非継続事業の純損失	(1,011)	(673)		
修正純損失	\$(7,211)	\$(38,498)	\$(53.23)	\$(287.69)

第4四半期に顕著であった項目は、通年では以下のようになっています。

- 金利および償却費用104億ドル（税引き後、67億ドル）
これには、前払い委託資産の前倒し償却費用52億ドル（税引き後、34億ドル）が含まれます。
- 進行中のナンシャン売却に関して損失計上した28億ドル（税引き後、15億ドル）
- 企業向け損害保険事業における支払備金の増強27億ドル（税引き後、18億ドル）
- 上記の事象等を原因として生じる繰延税金資産の現時点での評価性引当金として計上した29億ドル

12ヶ月

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

			希薄化後1株当たり(a)(b)	
	2009年	2008年	2009年	2008年
AIGに帰属する純損失	\$(10,949)	\$(99,289)	\$(90.48)	\$(756.85)
修正純利益算出のために、損失を加えて利益を控除：				
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引後	(5,215)	(42,380)		
事業売却の純損失、税引後	(1,263)	-		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の利益（損失）、税引後 (c)	1,078	(2,646)		
非継続事業の純損失	(566)	(2,599)		
修正純利損失	\$(4,983)	\$(51,664)	\$(46.40)	\$(395.28)

- (a) 2008年の株式数および1株あたりは、2009年6月30日に実施された1対20での株式併合を反映して修正されています。
- (b) 当該期間の純損失を考慮し、準普通株式の影響は希薄化されていないため、基準発行済み株式が用いられています。
- (c) ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益などに関する、経済的に有効なヘッジ活動の影響を示しています。また、関連する正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）は含まれていません。

第4四半期ならびに2009年通年の業績について、AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは次のようにコメントしています。「2009年に我々は、AIGの保険事業の安定化ならびに強化、AIGファイナンシャル・プロダクツ・コーポレーション(AIGFP)のエクスポージャーの縮小、一部事業の売却などにより、戦略的な事業再編計画の実行を大きく前進させました。喜ばしいことに、ピーター・ハンコック、トム・ルッソ、マイケル・コーアン、サンドラ・カペルら業界評価も高い金融サービスの熟練スタッフがAIGの経営陣に加わり、この偉大な企業の再編に向けた見通しは明るくなりました。」

「第4四半期には、アメリカン・インターナショナル・アシユアランス・カンパニー・リミテッド(AIA)ならびにアメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー(ALICO)の売却に向けて大きく前進しました。また現在この2社を保有している特別目的会社(SPV)の設立を通じ、FRBNYに対してSPVの優先株式持分を発行することで、FRBNY与信枠における負債を250億ドル削減しました。」

「FRBNYからの負債を削減した結果、第4四半期にはこれに関連して損失が発生しました。2008年9月に850億ドルの支援と引き換えに、AIGは優先株式持分79.9%を、米国財務省を単一の受益者とする信託に移管しました。この持分は事実上、AIGが貸借対照表に230

億ドルとして資産計上した「前払い」信託資産となりました。FRBNY 与信枠が存在する期間にわたってこれを償却しており、期限前返済を加速しています。FRBNY の与信枠の利用可能額を 250 億ドル削減したことに関連して、2009 年第 4 四半期にはこの資産について、税引前前倒し償却費用 52 億ドルを計上しました。引出可能額の引き下げは、これで 2 回目です。2008 年には当初の与信枠 850 億ドルを 600 億ドルに削減しました。このときには、FRBNY 与信枠の条件が修正され、同様に前倒し一括償却 66 億ドルを計上しました。」

「重要なこととして、年末の社内での保険数理分析に基づき、第 4 四半期に AIG は世界全体での損害保険事業（チャーティス）の支払備金を 23 億ドル（税引き後、15 億ドル）増強しました。AIG はこの判断にあたって、外部の保険数理人による分析結果を考慮しています。今回の支払備金の積み増しは、2009 年 12 月 31 日時点でのチャーティスの支払備金総額のおよそ 3.6%を占めています。」

「北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、先頃サンアメリカ・ファイナンシャル・グループにブランドを変更し、リレーションシップの再構築や、販売網の再活性化において目覚ましい前進を遂げました。銀行販売向けの定額年金商品を早くから開発したウェスタン・ナショナルが、2009 年第 3 四半期に再び市場でトップの位置を占めたことをとても誇りに思っています。」

「私たちは引き続き、資金需要に対処し、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション(ILFC)、アメリカン・ジェネラル・ファイナンス・インク(AGF)については、戦略的な事業再編の機会を探っています。」

「最後に、長期的に AIG の事業構成をどのように考えていくかという点において、我々はますます自信を強めています。世界でも最も高い評価を得ている、多様性に富んだ損害保険事業と強固な北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業を核とし、それを強化する他の事業を再構築するための着実な歩みを進めており、納税者の皆様への返済という目標を達成し、我々が業務を展開する地域社会に価値をもたらすことができるでしょう」とベンモシェはコメントを締めくくりました。

トータル・エクイティ

2009 年 12 月 31 日時点のトータル・エクイティは 981 億ドルで、2009 年 9 月 30 日時点の 765 億ドルから 216 億ドル増加しました。これには、FRBNY が保有する AIA ならびに ALICO の SPV における、非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い優先受益権分 245 億ドル、運用資産の未実現利益 34 億ドル、シリーズ F 確定利付非累積型優先株に関連する米財務省のコミットメント枠からの引き出し 21 億ドルが含まれ、AIG に帰属する純損失 89 億ドルによって一部相殺されました。

AIG の安定化ならびに AIG の債務返済に向けた経営陣の戦略の進捗状況

AIG は主要事業の価値を維持・向上させ、秩序ある資産売却計画を実行し、その将来的な事業価値を認識しました。AIG は、流動性と資本の柔軟性を維持しながら価値の最大化を図るために、継続的にこの計画を見直しています。

AIA ならびに ALICO に関する FRBNY との取引:

- 2009年12月1日、AIGとFRBNYは、新たに設立したSPV 2社の優先株式持分をFRBNYに移管する2件の取引を完了させました。これにより、FRBNYの与信枠における負債および利用可能額が250億ドル削減されました。AIGの資本構造が大幅に改善する一方、これらの取引により前払い委託資産の前倒し償却に関連する費用が52億ドル（税引き後、34億ドル）発生しました。

AIGFPの売却状況:

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2008年12月31日時点の約1.6兆ドルから41%減少し、2009年12月31日時点では約9,400億ドルとなりました。2009年第4四半期中には、デリバティブ・ポートフォリオは、2009年9月30日時点の約1.2兆ドルから22%減少しました。
- AIGFPはポートフォリオのトレードポジションを減らし、2008年12月31日時点の約35,000から54%減少し、2009年12月31日時点では約16,100となりました。2009年第4四半期中に、トレードポジションを2009年9月30日時点の約19,200から16%減少させました。

事業ならびに特定の資産の売却:

AIGの戦略的事業再編計画は、引き続き進展しています。2009年初めから2010年2月17日までに、AIGFPの資産を含め、AIGが売却に合意した、もしくは売却を完了した事業ならびに資産により、合計56億ドルの収益が生じる予定です。完了の際には、この資金をFRBNYへの返済に充て、FRBNYの与信枠による利用可能額が削減されます。AIGは他の多くの取引について、外部との実りある交渉を続けています。

- 2009年10月12日、AIGはナンシヤンの株式の97.57%を約21.5億ドルで売却することに合意しました。この結果、ナンシヤンは非継続事業として認められ、「ヘルド・フォー・セール」の会計基準を満たしました。

政府支援の状況:

- 2010年2月17日、AIGのFRBNYの与信枠からの借入残高は210億ドルで、これに加えて未払いの複利利息および手数料は55億ドルでした。利用可能額は合計140億ドルとなりました。主にFRBNYコマーシャルペーパー調達枠(CPFF)からの調達残高35億ドルを返済したこと、年初から借入残高は約31億ドル増加しました。2010年2月17日現在、CPFFからの調達残高は合計12億ドルとなりました。これとは別に、AIGFPがスポンサーとなっているが連結対象ではないストラクチャード投資商品のナイチンゲール・ファイナンスLLCの調達残高は、11億ドルでした。
- 2010年2月17日現在、米財務省のコミットメント枠による利用可能残額は223億ドルでした。

セグメント別業績

税引き前営業利益(損失) (百万米ドル)	12月31日までの3ヶ月間		12月31日までの12ヶ月間	
	2009年	2008年	2009年	2008年
損害保険事業	\$(1,753)	\$1,680	\$699	\$1,923
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業	1,034	(835)	2,335	1,464
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業	1,054	1,218	4,560	4,876
金融サービス事業	92	(17,592)	459	(40,364)
小計	427	(18,889)	8,053	(32,101)
その他	(7,857)	(12,900)	(14,100)	(16,853)
合計	\$(7,430)	\$(31,789)	\$(6,047)	\$(48,954)

損害保険事業

AIGの損害保険事業であるチャーティスの2009年第4四半期の正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の営業損失は、18億ドルとなりました。この要因は、支払備金を23億ドル積み増したことに由来しますが、2008年第4四半期の営業損失は、のれん代の減損12億ドルを含め、17億ドルでした。

備金の増加は、AIGの年末の支払備金の調査が完了したのを受けたもので、2009年12月31日現在のチャーティスの支払備金合計632億ドルの3.6%に当たります。備金の積み増しは、主に2002年度およびそれ以前のエクセス賠償責任保険、エクセス労働者災害保険に関連するものです。2009年12月31日現在、チャーティスの米国における保険契約余剰金は約270億ドルで、2008年末から約4%増加しました。

2009年第4四半期、チャーティスの正味収入保険料は、前年同期比で2.2%減少し、69億ドルとなりました。小幅な減少にとどまったのは2009年第1-3四半期に比べ、契約維持率の上昇、新規契約の募集、料率の安定などを反映しているためです。しかしながら、正味収入保険料は、引き続き厳しい経済情勢、外国為替、特に労災保険の特定のクラスにおける市場料率に満足できない中で料率水準を維持するための戦略的決定などの影響を受けています。

2009年第4四半期のコンバインド・レシオは、前年同期がのれん代の減損に関連する13.8ポイントを含めて120.8であったのに対して、備金の増加による28.2ポイントを含めて132.5となりました。2009年通年のコンバインド・レシオは99.2となり、2008年から2.6ポイント改善しました。

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業は現在、サンアメリカン・ファイナンシャル・グループというブランドに変更しており、2009年第4四半期の正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前営業損益は、前年同期の8.35億ドルの損失に対して、10億ドルの利益となりました。このように大幅に改善した要因は、中核事業の安定化が続いたこと、また株式・債券市場を中心に運用成績が改善したことです。

2009年12月31日現在、運用資産は前年同期比で7.7%増加して、2,309億ドルとなりました。株価が、キャッシュフローの減少分を相殺する以上に上昇したためです。収入保険料、預かり資産、その他の収入は前年同期比で5.3%増加して、54億ドルとなりました。これは、一部の販売パートナーとの販売契約の復活により、個人定額年金の銀行での販売が増加した結果です。個人定額年金の販売の増加は、生命保険と終身年金の販売の減少により一部相殺されました。専属販売網を通じた生命保険の販売は、業界全体が落ち込んだのに比べ落ち着いていました。独立した販売チャネルを通じた販売は減少しました。これは、AIGに関するネガティブな報道による影響が長引いたこと、またリスク選択に対する規律あるアプローチが続けられたことによります。終身年金の販売は、現行の料率水準により、大きな影響を受けています。解約の動きは落ち着き、個人の定額および変額年金の解約率は過去の水準とほぼ一致しています。

正味投資利益は、前年同期と比べて12億ドル増加しました。この主な要因は、パートナーシップ収入の増加、金融受け皿会社(Maiden Lane II)の留保分の修正による評価益で、投資ポートフォリオでの流動性の上昇によるマイナス効果を相殺しました。正味実現キャピタル・ロスは、市場環境の改善と2009年第2四半期に一時的でない減損の認識に関して新たな会計基準を適用したことによって、前年同期を大幅に下回り、過去数四半期と比べても減少しています。

保険獲得費用およびその他の保険関連費用は、前年同期の13億ドルから減少して7.49億ド

ルとなりました。これは、2008年には不利な繰延保険獲得費用のアンロック調整が行われたためです。

北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業

2009年第4四半期、北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は11億ドルとなり、前年同期の12億ドルとほぼ同水準でした。

収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比で5.8%減少して83億ドルとなりました。この要因となったのは、投資型商品の販売減少でした。ほとんどの地域で売上げは回復しました。ただし、イギリス、日本を中心に投資型の生命保険およびリタイアメント商品の売上げは、AIGにとってネガティブな事象の影響を引き続き受けています。販売網の再生と世界景気の安定化を受けて、AIAならびにALICOの業績は回復しました。解約の動きは落ち着き、解約率は過去の水準とほぼ一致しています。

保険契約者取引益(損)を除く正味投資利益は、前年同期比で19.4%増加し、3億1,600万ドルでした。この主な要因は、パートナーシップおよびミューチュアル・ファンドのリターンの上昇です。2009年第4四半期の正味実現キャピタル・ゲインは、大幅なキャピタル・ロスとなった前年同期と比べると小幅な利益でした。

金融サービス事業

2009年第4四半期、金融サービス事業部門は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）およびヘッジ会計処理の要件を満たしていないヘッジの影響額の調整前営業利益として9,200万ドルを計上しました。前年同期は176億ドルの営業損失を計上しています。

AIGFPは事業とポートフォリオの段階的縮小を進めており、2009年第4四半期には、前年同期の172億ドルの営業損失に対して、8,000万ドルの営業利益を計上しました。前年同期の主な損失の要因は、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオの未実現時価評価損と信用評価の調整でした。2009年第4四半期の営業利益には、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオの未実現時価評価益2.75億ドル、信用評価のプラスの調整3.45億ドルが含まれ、連結で除去されるAIGからの借入金に対する金利費用5.29億ドルで一部相殺されました。

ILFCの2009年第4四半期の営業利益は66.2%増加し、前年同期の2.07億ドルに対して、3.44億ドルとなりました。この主な要因は、保有航空機の増大と借入金利の低下ですが、償却費用と再生のための引当金が、前年同期比で増加したことで一部相殺されました。ILFCは金融債務、営業債務を返済するための選択肢の1つとして、航空機売却の可能性を探っています。また、有担保債での資金調達を通じた資本市場へのアクセスなど他の選択肢も引き続き検討しています。

2009年第4四半期にAGFは、前年同期が2.48億ドルの営業損失を計上したのに対し、3.09億ドルの営業損失を計上しました。これは、平均的に低い水準の債権からの金利収入が減少したこと、貸付損失引当金が増加したことによるものです。こうした差異は、平均債務残高の減少と、AGFのすべての事業で管理費が削減されたことによる営業費用の減少を要因とする、支払利息の減少により一部相殺されました。AGFは、業務をサポートし債務を返済するための主な資金調達源となるのは、顧客債権の回収、オンバランスでの追加の証券化、ポートフォリオの売却だと考えています。

その他の事業

資産運用事業は、現在報告対象とするセグメントとはみなされておらず、その業績は、AIGのその他の事業の非中核事業として以下に示されています。さらに、これまで資産運用事業のセグメントで報告されていた特定のブローカー・サービス、ミューチュアル・ファンド、GIC、その他の資産運用業務の業績は、現在は米国内生命保険およびリタイアメント・サービス事業のセグメントに含まれています。このため過去の結果は修正されています。

2009年第4四半期の親会社の業績には、前年同期の110億ドルの営業損失に対し、68億ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失が含まれています。2009年第4四半期の営業損失68億ドルには、FRBNYの与信枠に対する支払利息62億ドルが含まれています。さらにこれには前払い委託資産の前倒し償却が含まれています。2008年第4四半期の親会社の業績には、金融受け皿会社(Maiden Lane III)の評価損が含まれていましたが、2009年第4四半期には含まれていません。これは、2009年5月にAIGがML IIIの株式持分を親会社から非中核事業に移したためです。

2009年第4四半期の非中核保険事業の業績には、前年同期の12億ドルの営業損失に対し、4,500万ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失を含んでいます。第4四半期の業績には、モーゲージ・ギャランティの引受け損失が含まれますが、Maiden Lane IIIの留保部分における評価益によって一部相殺されました。

2009年第4四半期のその他の非中核事業の業績には、前年同期の4.75億ドルの営業損失に対し、4.06億ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失を含んでいます。第4四半期の業績には、不動産投資の減損、インスティテューショナル・アセット・マネジメントの基本運用報酬の低下が含まれますが、MIPの受取利息の増加により相殺されました。信用環境の改善や、一時的でない減損に関する新たな会計基準の適用により、正味実現キャピタル・ロスは減少しました。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

この報告結果には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。

これらの予測および見解は、特にニューヨーク連銀 (FRBNY) ならびに米国財務省との完了した取引の結果、処分の件数、規模、条件、費用、収益、処分の時期とこれらが AIG の事業、財務状況、業績、キャッシュフロー、流動性に及ぼし得る影響 (AIG はいかなるときでも、また時間の経過と共に、いくつかの事業の売却計画を変更することがあります)、AIG の資産売却プログラムの結果に左右される長期的な事業構成、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場に対する AIG のエクスポージャー、AIG 親会社からの事業の分離、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、そして顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略などを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況は、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因は、AIG の事業再編計画で予定されていた取引の失敗、世界的な信用市場の動向、およびパート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」、パート II 項目 1A、2009 年 12 月 31 日期末の年度についての AIG のフォーム 10-K の年次報告書の「リスク要因」で取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面また口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIG グループは世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国・地域で事業展開しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、リタイアメント・サービス事業、金融サービス事業、そして資産運用事業も AIG グループの世界的な事業となっています。持ち株会社 AIG, Inc. の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2009 年第 4 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、AIG は市場の混乱に伴う事項、金融受け皿会社留保分、売却の影響、FRBNY の与信枠に関連した金利および分割償還、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、ALICO U.K.の投資型商品、シリーズ C 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）、変動持分事業体の影響、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動、のれん代の減損の影響、税金評価引当金、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、UGC 業績、異常災害関連損失の影響ならびに為替レートの影響前の収入、純利益、営業利益、関連した成果も示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

特に、市場の混乱に伴う事項、金融受け皿会社留保分、売却の影響、FRBNY 与信枠に関連した金利および分割償還、事業再編に関連する活動、ALICO U.K.の投資型商品、シリーズ C 優先株の転換は、AIG の基本的な継続事業ではなく、かつてない市場の変動から生じたもので、AIG への異例の政府支援に関連しています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、事業利益（損失）を示すことは、投資家の皆様にとって有益だけでなく、損害保険事業の結果を理解していただくために非常に重要となる財務情報を提供することになると考えています。損害保険会社の営業利益は、事業利益（損失）、正味投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）という 3 つの要素を含んでいます。事業利益（損失）の開示がなければ、保険会社が中核的事业活動でどれほど成功を収めているのか、あるいは、引受けリスクはどうなっているのかを判断することは不可能です。事業利益（損失）の情報を開示せずに、投資利益と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を営業利益に含めた場合には、引受損失を覆い隠してしまう可能性があります。正味投資利益額は、引受結果と全く関係のない、金利やその他の要素の変化が原動力となる場合があります。

事業利益（損失）は、損害保険事業の業績を判断するのに AIG の上級経営幹部が用いている重要な測定基準で、保険業界において業績の標準的な測定基準として用いられています。さらに、同じ理由から、AIG を追跡している証券アナリストも、分析の際は実現資本取引は除いており、当社に対し、GAAP 情報以外の情報の提供を常に要請してきています。

AIG は、保険当局により定められている、もしくは認められている会計原則に従って生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預り金およびその他の収入）、総収入保険料、正味収入保険料およびコンパインド・レシオを示していますが、これは、これらの会計原則が保険業界で使用されている業績の標準的な測定方法であるため、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由によるものです。

添付書類 I

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2009年	2008年(a)	増減	2009年	2008年(a)	増減
損害保険事業 (b) :						
正味収入保険料	\$ 6,930	\$ 7,088	(2.2) %	\$ 30,664	\$ 35,633	(13.9) %
正味既経過保険料	8,030	8,663	(7.3) %	32,274	36,499	(11.6)
事業損失	(2,609)	(1,797)	-	(2,596)	(683)	-
正味投資利益	856	117	-	3,295	2,606	26.4
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)						
調整前利益	(1,753)	(1,680)	-	699	1,923	(63.7) %
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (c)	152	(2,269)	-	(530)	(4,374)	-
税引き前営業利益(損失)	\$ (1,601)	\$ (3,949)	-	\$ 169	\$ (2,451)	-
損害率	98.89	77.76		78.60	71.49	
経費率	33.60	42.99		29.44	30.38	
コンバインド・レシオ	132.49	120.75		108.04	101.87	
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業 :						
収入保険料およびその他の売上	\$ 1,279	\$ 1,673	(23.6) %	\$ 5,327	\$ 7,644	(30.3) %
正味投資利益	2,663	1,490	78.7	9,553	9,134	4.6
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)						
調整前利益	1,034	(835)	-	2,335	1,464	59.5
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (c)	(364)	(14,393)	-	(3,514)	(36,412)	-
税引き前営業利益(損失)	670	(15,228)	-	(1,179)	(34,948)	-
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業 :						
収入保険料およびその他の売上	6,201	6,332	(2.1)	(22,774)	24,710	(7.8)
正味投資利益	2,659	(3,553)	-	11,502	157	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)						
調整前利益	1,054	1,218	(13.5) %	4,560	4,876	(6.5)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (c)	291	(4,637)	-	(1,339)	(8,208)	-
税引き前営業利益(損失)	1,345	(3,419)	-	3,221	(3,332)	-
金融サービス事業 :						
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動および正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 税引き前の営業利益 (損失)	92	(17,592)	-	459	(40,364)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動(c)	-	(20)	-	3	41	(92.7) %
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (c)	3	(329)	-	55	(498)	-
税引き前営業利益(損失)	95	(17,941)	-	517	(40,821)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前						
その他の利益(b)	(7,249)	(12,644)	-	(14,022)	(16,897)	-
その他の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)(c)	50	(4,690)	-	(476)	(6,775)	-
事業売却の純損失	(70)	-	-	(1,271)	-	-
会社間連結・消去調整 (c)(d)	(842)	(1,254)	-	(607)	(1,304)	-
継続事業のタックス・ベネフィット調整前損失	(7,602)	(59,125)	-	(13,648)	(106,528)	-
タックス・エクスペンス(ベネフィット)	414	2,642	-	(1,878)	(8,894)	-
継続事業の純損失	(8,016)	(61,767)	-	(11,770)	(97,634)	-
非継続事業の純損失、税引き後	(994)	(789)	-	(543)	(2,753)	-
純損失	(9,010)	(62,556)	-	(12,313)	(100,387)	-
控除 :						
非支配的持ち分に帰属する継続事業の純損失 :						
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	140	-	-	140	-	-
その他	(294)	(781)	-	(1,527)	(944)	-
非支配的持ち分に帰属する継続事業の損失	(154)	(781)	-	(1,387)	(944)	-
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の利益(損失)	17	(116)	-	23	(154)	-
AIG に帰属する純損失	(8,873)	(61,659)	-	\$ (10,949)	\$ (99,289)	-
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ (8,873)	\$ (62,059)	-	\$ (12,244)	\$ (99,689)	-

財務ハイライト

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2009年	2008年(a)	増減	2009年	2008年(a)	増減
AIGに帰属する純利益（損失）	\$ (8,873)	\$ (61,659)	-	\$ (10,949)	(99,289)	-
AIGに帰属する非継続事業の損失、税引き後	(1,011)	(673)	-	(566)	(2,599)	-
事業売却の純損失、税引き後	(326)	-	-	(1,263)	-	-
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引後	(501)	(20,312)	-	(5,215)	(42,380)	-
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の利益（損失）、税引後	176	(2,176)	-	1,078	(2,646)	-
AIGに帰属する調整後純利益（損失）	(7,211)	(38,498)	-	(4,983)	(51,664)	-
普通株式1株当たり損失 —希薄化後 (e) :						
AIGに帰属する純損失	(65.51)	(458.99)	-	(90.48)	(756.85)	-
AIGに帰属する調整後純損失	\$ (53.23)	(287.69)	-	(46.40)	(395.28)	-
AIG株主資本の1株当たり帳簿価額 (e)(f)				516.94	\$ 391.94	31.9 %
AIG株主資本の見積1株当たり帳簿価額 (e)(g)				\$ 32.42	\$ 18.03	79.8 %
平均発行済み株式—希薄化後(e)	135	135		135	132	

財務ハイライト特記事項

* 規定Gに従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2009年度の表示に合わせるため2008年度の結果では再分類されています。
- AIGの主要な業務意思決定者が業務について検討し、資源配分を決定し、パフォーマンスを評価する際の方法に財務報告を合わせるために、2009年にセグメント表示は変更されました。過去の数値は、現在の表示に合わせて修正されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- 連結されている特定のAIGが管理しているパートナーシップ、プライベート・エクイティおよび不動産ファンドからの利益を含んでいます。これらの損失は、継続事業の損失の構成要素ではない、非支配的持ち分に帰属する継続事業の純損失の中で相殺されています。
- 2009年6月30日、AIG株主は1対20の株式併合を承認し、同日実施されました。表示されているこれ以前のすべての期間は、この株式併合を反映して調整されています。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 米財務省の株式投資に関するAIG株主資本を調整して算出した見積1株当たり簿価額を示します。

添付書類 II

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク 1株当たり利益（損失）

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)	12月31日までの3ヶ月間		12月31日までの12ヶ月間	
	2009年	2008年	2009年	2008年
EPSの分子：				
継続事業の損失	\$ (8,016)	\$ (61,767)	\$ (11,770)	\$ (97,634)
非支配的持ち分に帰属する継続事業の損失：				
FRBNYが保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い優先受益権	140	-	140	-
その他	(294)	(781)	(1,527)	(944)
非支配的持ち分に帰属する継続事業の損失合計	(154)	(781)	(1,387)	(944)
AIGに帰属する継続事業の純損失	\$ (7,862)	\$ (60,986)	\$ (10,383)	\$ (96,690)
非継続事業の損失	(994)	(789)	(543)	(2,753)
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の利益(損失)	17	(116)	23	(154)
AIGに帰属する非継続事業の純損失	(1,011)	(673)	(566)	(2,599)
AIG シリーズ D 優先株の累積配当金	-	(400)	(1,204)	(400)
AIG シリーズ E 優先株に交換したシリーズ D 優先株のみなし配当金	-	-	(91)	-
AIG 普通株主に帰属する継続事業の純損失	(7,862)	(61,386)	(11,678)	(97,090)
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ (1,011)	\$ (673)	\$ (566)	\$ (2,599)
EPSの分母：				
加重平均発行済み株式数 - 基準1株当たりの算出	135,446,727	135,207,631	135,324,896	131,714,245
加重平均発行済み株式数 - 希薄化後1株当たりの算出	135,446,727	135,207,631	135,324,896	131,714,245
AIGに帰属するEPS：				
基準1株当たり				
継続事業の損失	\$ (58.05)	\$ (454.01)	\$ (86.30)	\$ (737.12)
非継続事業の損失	(7.46)	(4.98)	(4.18)	(19.73)
希薄化後1株当たり				
継続事業の損失	\$ (58.05)	\$ (454.01)	\$ (86.30)	\$ (737.12)
非継続事業の損失	(7.46)	(4.98)	(4.18)	(19.73)

修正1株当たり純利益（損失）

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)	12月31日までの3ヶ月間		12月31日までの12ヶ月間	
	2009年	2008年	2009年	2008年
EPSの分子：				
修正純損失	\$ (7,211)	\$ (38,498)	\$ (4,983)	\$ (51,664)
シリーズ D 優先株の累積配当金	-	(400)	(1,204)	(400)
シリーズ E 優先株に交換したシリーズ D 優先株のみなし配当金	-	-	(91)	-
AIG 普通株主に帰属する修正純損失	\$ (7,211)	\$ (38,898)	\$ (6,278)	\$ (52,064)
平均発行済み株式数— 基礎1株当たりの算出	135,446,727	135,207,631	135,324,896	131,714,245
株式ベースの従業員報奨制度にもとづいて発行された報奨による株式増加数	-	-	-	-
平均発行済み株式数— 希薄化後1株当たりの算出	135,446,727	135,207,631	135,324,896	131,714,245
AIGに帰属する修正普通株1株当たりの純損失：	\$ (53.23)	\$ (287.69)	\$ (46.40)	\$ (395.28)